

# 施設整備の基本方針について

## 1 第4回検討委員会における目的

- 宝塚市の新施設の施設整備基本方針(素案)をもとに、検討を行う。

ごみ処理施設の整備を行うにあたって、施設整備の基本的な方針を定める必要があります。以下に、第3回検討委員会が出された意見等をもとに、基本方針の素案を示します。

## 2 基本方針(素案)

ごみは市民一人ひとりが排出することから、クリーンセンターの建て替えは、市民一人ひとりの課題です。本市は、この認識に基づき、市民参加方式による「宝塚市新ごみ処理施設整備基本構想検討委員会」を設立し、以下の基本方針を取りまとめました。

### 方針1：安全・安心で環境保全に優れた施設

近年のごみ処理施設は、環境保全技術の発展により、排ガス、悪臭、騒音、振動、排水等による影響を小さく抑えることができ、環境との調和がとれたものとなりました。

新たに整備するごみ処理施設(以下、「新施設」という。)でも、地球環境との調和に配慮し、資源エネルギー効率を含めた総合的な見地から最良の環境保全技術を導入します。また、安全性や危機管理についても万全の配慮を行い、地域や作業環境にとって安全・安心が確保された施設とします。

### 方針2：安定した稼働ができ、災害に強い施設

新施設は、宝塚市唯一のごみ処理施設です。不具合等で処理が止まってしまい、公衆衛生への影響が多大とならないよう、安定した処理を持続的に行う必要があります。

新施設は、導入技術の安定性を備えた施設とし、ごみ量・質による変動にも対応でき、長期間にわたり安定した稼働を持続的に行うことができる施設とします。また、施設の耐久性を備えた施設とし、災害時にも継続して処理を行うことができるとともに、防災拠点としてエネルギー供給や避難所等の機能を有した施設とします。

### 方針3：循環型の街づくりに寄与する施設

宝塚市一般廃棄物処理基本計画では、基本方向の1つとして「3Rの推進」を掲げています。

新施設は、ごみに含まれる資源物は可能な限り回収し、ごみの持つ熱エネルギーを効率的に回収し有効利用するとともに、自然エネルギーを有効利用した創エネルギーシステムや省エネルギーシステムを導入することで、循環型の街づくりに寄与する施設とします。また、施設を利用した環境教育を通して、市民の協力による循環型の街づくりを促進する施設とします。

#### 方針 4 : 経済性・効率性に優れた施設

ごみ処理施設は、市民や国民の税金により建設・運営されるものです。導入技術や設備は費用対効果に優れたものとする必要があります。また、ごみ処理システムは、市民の協力の上に成り立つものです。分別排出等で協力を得られる施設とする必要があります。

新施設は、施設の計画・設計・建設から運営・維持管理・改修、収集・運搬、また市民の協力までを含めたごみ処理システム全体で、常に経済性や効率性に配慮し、ライフサイクルコストを縮減することができる施設とします。

#### 方針 5 : 環境教育・理科教育の要となり、地域に親しまれる施設

ごみ処理施設は、ごみを放っておくと衛生状態が悪化するということはどういう状態になるのか、日々出しているごみがどのように処理されているかなど、身近な問題をテーマとした環境教育に最適な施設です。また、物が燃えるということや、電気をつくるということの仕組みを学ぶことができるなど、理科教育の一環になる要素が集約しています。

新施設は、自然現象やごみ問題をはじめとした環境問題の「なぜ」を、体験しながら考えるきっかけとなる施設とします。また、環境に関する活動拠点としての機能を備え、子供から高齢者まで幅広い年代の方々が集い、楽しく交流できる施設とし、地域に親しまれ、地域のコミュニティ形成を促進する施設とします。

#### 方針 6 : 周辺の景観と調和した施設

近年のごみ処理施設は、エネルギー利用や資源循環を促進するシンボルとして愛される施設となりつつあります。新施設は、施設のデザイン面において周辺の景観と調和したものとするとともに、資源循環のシンボルとして、市民に愛される施設を目指します。